

熊本地震復興手記集

声

熊本市

2016.4.14 21:26

静かだったあの夜
一斉に声が聴こえてきた
誰の声というわけでもない
誰かが誰かを呼ぶ声
助けを求める声
不安に怯える泣き声
テレビで繰り返し流れる声
近くで家族が話す声
遠くの友人に電話する声
暗闇の中私たちは
正体不明の声に包まれた



日本中から世界中から
 とてつもないエネルギーを受け取った
 たくさんの勇気づけられる声から
 わたしたちは何を学んだだろう
 あの夜に失ったものは大きい
 しかし
 あの夜があったからこそ
 生まれたものもある
 あの教訓を活かし
 これからのわたしたちの力にするために
 4年間の「声」を未来へつなぐ



その悲しみの声は
 月日が経つにつれ少しずつ
 別のものへと姿を変えていった
 誰かが誰かを励ます声
 助けに応える声
 不安を勇気に変える声
 誕生のニュースを伝える声
 家族の笑い声
 遠くの友人からの力強い声
 あの夜以来聴こえていた声の正体は
 たくさんの人たちのエネルギーが
 形になったものだった

発刊にあたって

平成28年4月14日21時26分および同月16日1時25分に発生した「平成28年熊本地震」は、震度7の大地震が同一地域においてわずか28時間の間に2度も発生し、その後も余震が半年間で4000回を超えるなど、国内観測史上初めての大災害となりました。

今回の震災は、市内の避難者数が最大で11万人を超えるなど多くの市民が被災し、本市のシンボルである熊本城をはじめ市民病院など多くの施設が被害を受けるとともに、市内各所で家屋が倒壊し、道路・橋梁が損壊、電気・ガス・水道も寸断されるなど、全市に甚大な被害をもたらしました。

約4年を迎える現在でも、未だ仮設住宅等での生活を余儀なくされている被災者の方々がいらつしやいます。その一方で、仮設住宅等の入居世帯数は619世帯（令和2年1月末時点）となり、ピーク時（約1万2000世帯）と比較すると多くの方々が住まい再建を果たしています。また、被災したインフラや市民病院の復旧が完了し、熊本城においても一部特別公開を開始するなど、着実に復旧・復興が進んでいます。

このように本市が復旧・復興を進めてこられたのは、市民や地域、企業・団体などの関係者の皆様が、ご自身も被災しているにもかかわらず、復旧・復興に向けてそれぞれの立場で様々な活動に尽力され、そして、震災直

後から他自治体をはじめとする市外の多くの皆様から多大なご支援をいただいたからに他なりません。

ただ、震災直後の市の対応におきましては、一日も早い復旧・復興に向けて総力を挙げて取り組んでまいりましたものの、様々な課題・反省点が明らかになりました。そのため、当時の関係者がどのような活動を行い、どのような思いでいたか、その声を集めるとともに、行政の震災直後からの様々な取組や課題など、震災で得た経験や教訓を次世代へ残すことが被災市としての使命であると考え、本手記集を編纂いたしました。

本手記集のタイトルは「声」です。復旧・復興に尽力した関係者の生の声を被災地から広く伝えることで、全国の皆様あるいは各関係機関等の防災対策や防災意識の向上に繋がることが出来れば幸いです。

結びに、本誌の作成にあたり、貴重なお話や資料等のご提供など、多大なるご協力をいただきました多くの関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

令和2年3月 熊本市